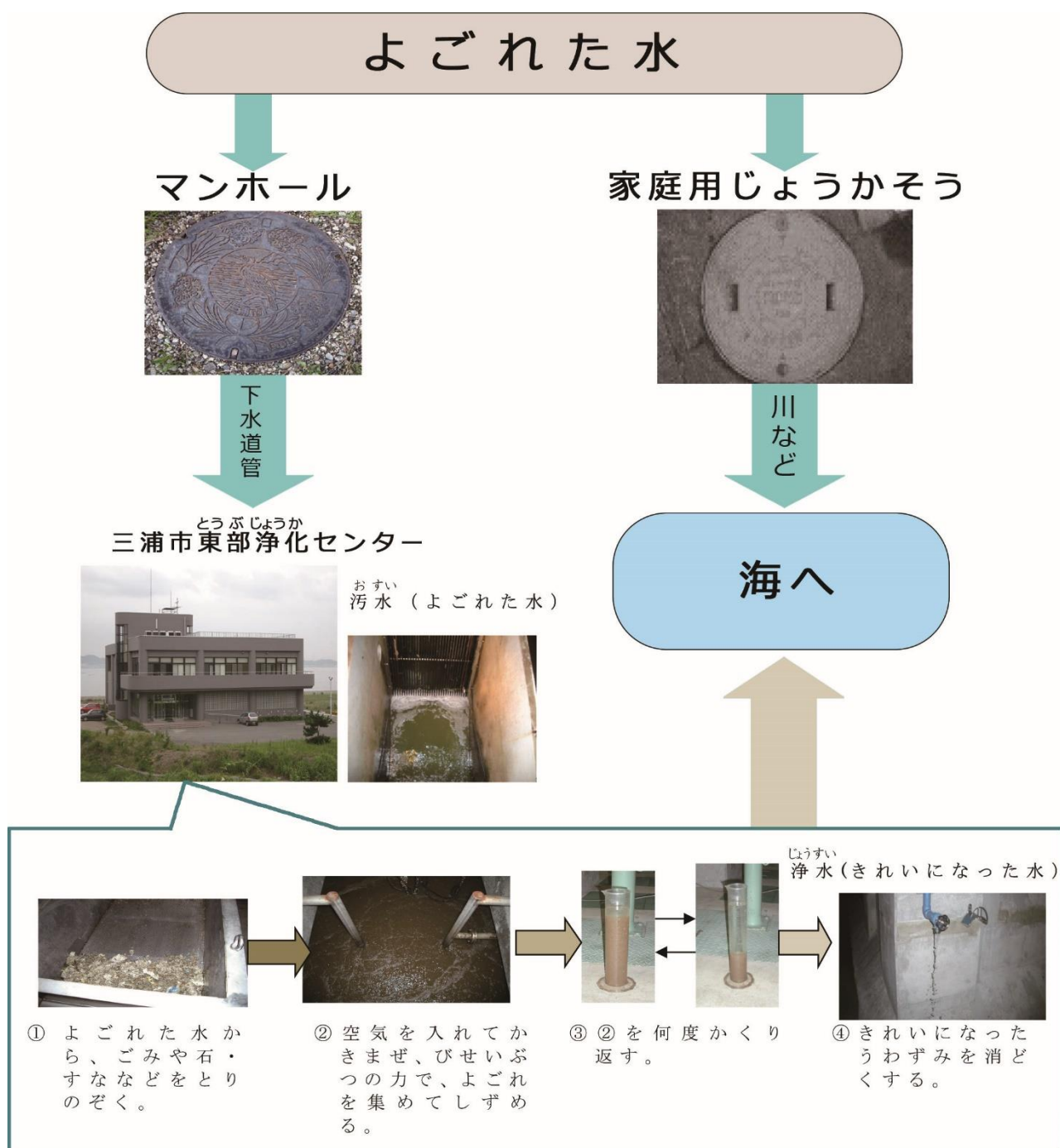


(2) わたしたちのくらしと下水道^{げすいどう}

わたしたちが、家庭や学校で使ったよごれた水は、どこへいくのでしょうか。

◆よごれた水のゆくえ



三浦市の一部では、「公共下水道」^{こうきょうげすいどう}が、整びされています。そこでは、各家庭のよごれた水を下水道管^{げすいどうかん}で集めて、まとめてしゅりし、きれいな水にして海に流しています。今も下水道^{げすいどう}の工事は進められています。

これまで学習してきたように、市では、市民の健康な暮らしを願って、ごみやよごれた水のしゅりに努力していますが、それには、たくさんのお金がかかるなど、多くの問題があります。市では、それらを含めた環境^{かんきょう}の問題の解決に向けて話し合いをもっています。そこには、中学生も参加^{さんか}して「『町をきれいに』みんなで守る条例^{じょうれい}」を作り、市の人々にアピールしています。

みなさんも、自分でできることを考えてみましょう。



(3) わたしたちのくらしと水

わたしたちは、毎日のくらしの中で、なにげなく水を使っています。

しかし、雨が少ない日が長い間^{つづ}続いたり、地震^{じしん}などの災害^{さいがい}が起きたりすると、水がたりなくなると、毎日の生活が不自由になってしまいます。

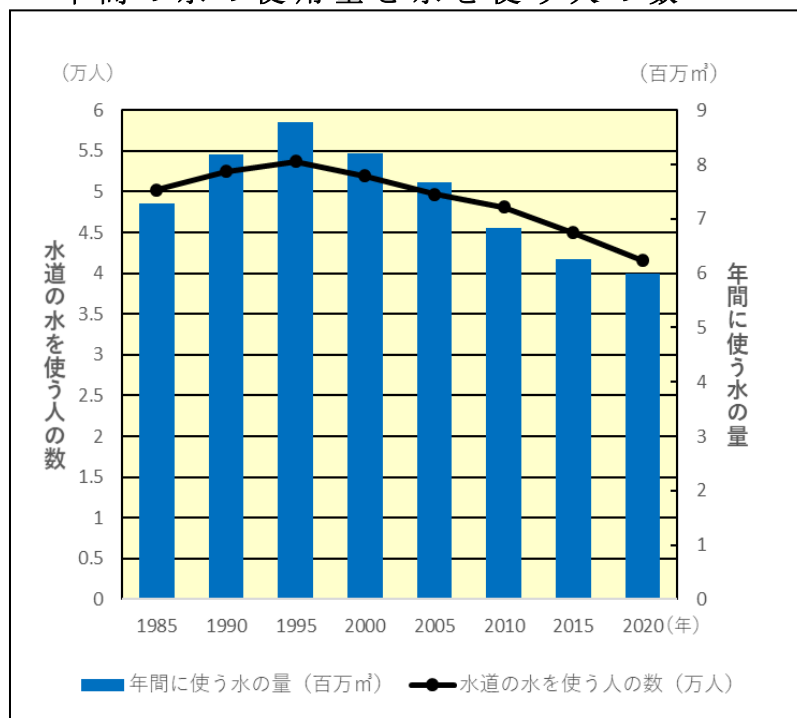
そこで、水道の水がわたしたちの家庭^{かてい}へ送られてくるまでの仕組み^{しくみ}や、生活と水とのかかわりについて、調べてみましょう。

◆水の使われ方

水は、家庭^{かてい}、学校、工場などいろいろなところで使われています。家庭^{かてい}や学校での水の使われ方を調べてみましょう。

家での水の使われ方

一年間の水の使用量と水を使う人の数



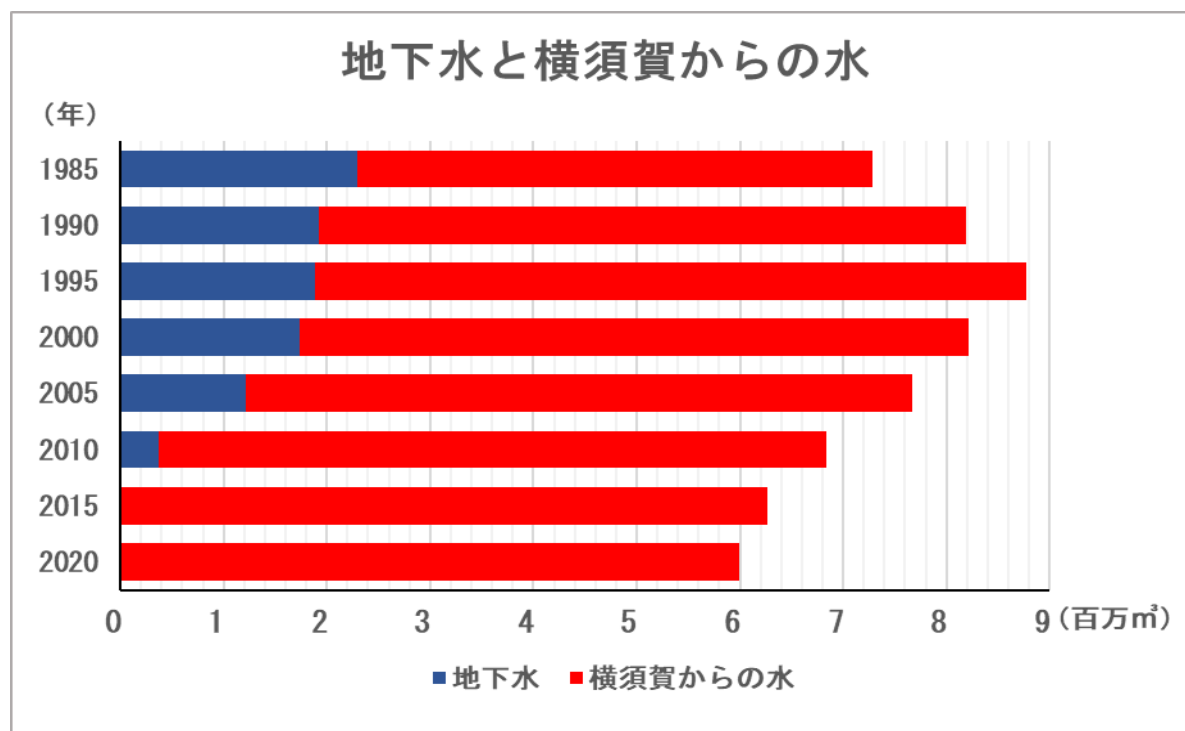
(市上下水道部調べ)



(編集委員作成)

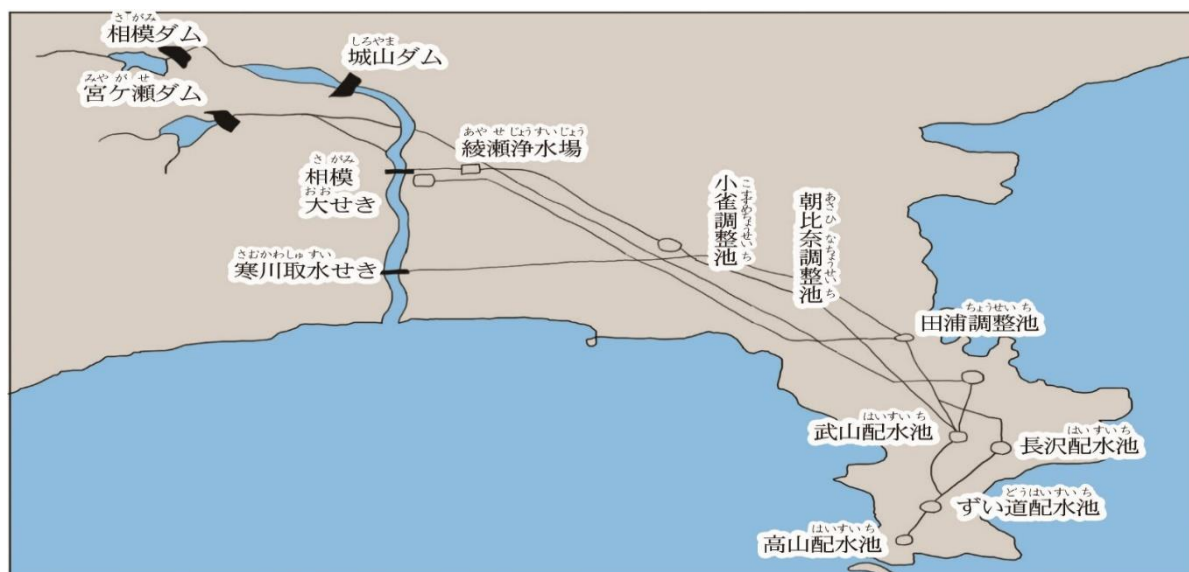
水道の水がとどくまで

三浦市は近くに大きな川がありません。また、2012年3月末に井戸水源からの取水を休止したため、すべての水を横須賀市から買っています。それでは、その水はいったいどこからどのようにして、わたしたちの家にとどくのでしょうか。

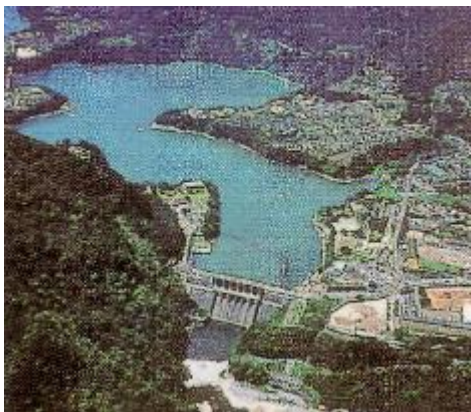


(市上下水道部調べ)

川から三浦市にとどくまで



(編集委員作成)



つくいこしろやま
津久井湖と城山ダム



さがみ
相模大ぜき



さむかわしゅすい
寒川取水ぜき



こすずめじょうすいじょう
小雀浄水場



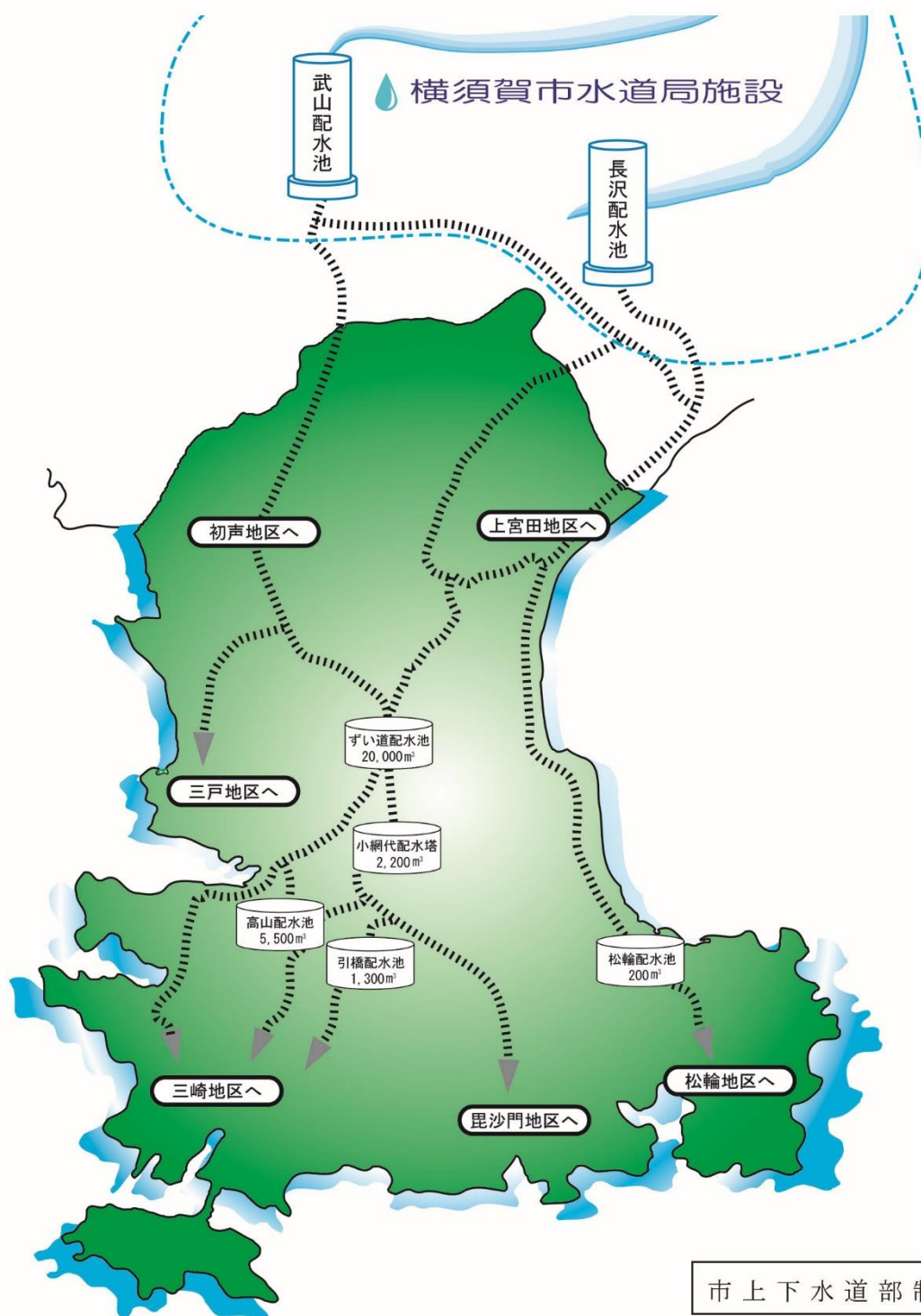
どうはいすい
ずい道配水池



こあじろはいすいとう
小網代配水塔

写真：三浦市上下水道部 横須賀市上下水道局 横浜市水道局

地下水源 配水池と主な水道



三浦市には、南下浦町上宮田などに12の井戸水源がありますが、2012年3月末にて全て取水を休止しました。

◆水道のひろがり

三浦市では、昔^{むかし}から、水にはたいへん苦^{くろ}勞^うしてきました。市の水道がひかれる前は共同井戸^{きょうどういど}がつくられていましたが、水質^{すいしつ}も悪く、量^{りょう}も多くありませんでした。



こうえんぼうすいげんち
高田坊水源地

(編集委員撮影)^{りよう}

1934年(昭和9)、初声村^{はっせむら}で見つけた地下水を利用したのが、水道の始まりでした。

その後、市内の地下水を利用したり、横須賀市^{よこすか}から水を買ったりして、水道^{ちいき}を使える地域が広がっていきました。

三浦市の水道の発展^{はってん}

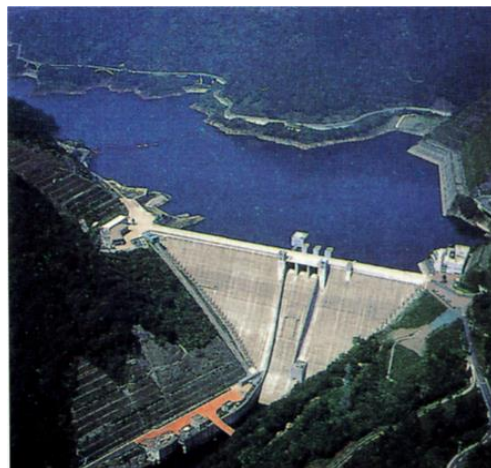
年	おもなできごと
1935	三崎地区に町営上水道 ^{ちやうえい} がひかれた
1952	横須賀市 ^{よこすか} から受水開始 ^{じゅすいかいし} (1000m ³ /日)
1956	三戸地区にかんい水道がひかれた
1958	松輪 ^{まつわ} 地区にかんい水道がひかれた
1961	菊名・上宮田地区、毘沙門 ^{びしゃもん} 地区にかんい水道がひかれた
1962	高山 ^{たかやま} 配水池 ^{はいすいち} ができた
1963	三浦市—横須賀市間に送水管 ^{そうすいかん} がひかれた(高山—武山 ^{たけやま})
1965	かんい水道をやめ、上水道にとうごうした
1966	上宮田—津久井 ^{つく井} 間に配水管 ^{はいすいかん} をせつぞくした
1972	ずい道 ^{ずい} 配水池 ^{はいすいち} ができた ずい道—横須賀市間に送水管 ^{そうすいかん} がひかれた(小網代—津久井)
1973	小網代 ^{こあじろ} 配水塔 ^{はいすいとう} ができた
1975	集中せいぎょ方式を取り入れた
1979	宮ヶ瀬 ^{みやがせ} ダムの計画に参加 ^{きんか} (29900m ³ /日)
2001	宮ヶ瀬 ^{みやがせ} ダムが完成 ^{かんせい}

(編集委員撮影)

◆水のかくほ

人口がふえ、生活が^{こうじょう}向上してくると、ますます水が^{ひつよう}必要になります。

そこで、水のかくほするために県と^{よこはま}横浜市、^{かわさき}川崎市、^{よこすか}横須賀市で^{きぎょうだん}水道企業団をつくり、国と^{きょうどう}共同で^{なかつがわ}中津川上流に^{みやがせ}宮ヶ瀬ダムをけんせつしました。三浦市も



^{みやがせ}
宮ヶ瀬ダム
(横浜市水道局提供)

その計画に^{さんか}参加し、将来に必要な水を確保しました。また、海の水を^{まみず}真水に変えて^{けんきゅう}飲み水をつくる研究や、一度使われた水をきれいに^{くふう}して工場などでつかえるような工夫もされています。さらに、川の上流に森林を育てることに力を入れています。森林は、雨水をたくわえるはたらきをする「^{しぜん}自然のダム」だからです。

市の上下水道部の人の話

水道の水が、いつでもどこでもだれもが安心して飲めるように、毎日水もれの^{てんけん}点検や^{すいしつ}水質の^{けんさ}検査をしています。また、水がたりなくならないようにするために、ダムや^{じょうすいじょう}浄水場をつくったり、^{かん}水道管の取り付けをしたりしています。ダムをつくる時には、そこに^す住んでいた人に、引っ越^こしてもらわなければなりませんし、家や学校も^{みずうみ}湖の底にしずんでしまいます。

このように、飲み水のために、たくさんの人たちの^{きょうりよく}協力が必要であり、さらにたくさんのお金と長い年月がかかっています。だから、みなさんも水をたいせつに使ってください。

(4) わたしたちのくらしと電気やガス

電気やガスも、水と同じように毎日の生活になく
てはならないものになっています。電気やガスがわた
したちの家庭へ送られてくるまでの仕組みや、生活と
のかかわりあいについて、調べてみましょう。

◆電気

電気は、わたしたちの生活の中でどのように使われ
ているのかを調べてみましょう。

三浦市に送られてくる電気は、主に電力会社の火力
発電所で作られています。火力発電所では、どのよう
にして電気を作っているのでしょうか。そして、どのよ
うにして、わたしたちの家にとどくのでしょうか。



よこはまかりよくはつでんじょ
横浜火力発電所 (東京電力提供)



そうでんせん
送電線 (編集委員撮影)



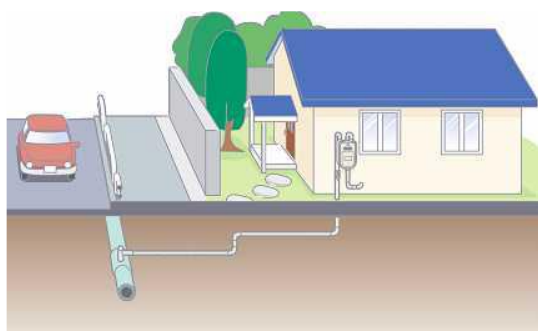
へんでんじょ
三崎変電所 (編集委員撮影)



ふうりよくはつでん
宮川の風力発電 (編集委員撮影)

◆ ガス

ガスには都市ガスとプロパンガスがあります。都市ガスは地下に埋めてあるパイプを通して工場から運ばれます。プロパンガスはガスをつめたボンベでとどけられます。ガスの原料は世界各地から輸入されている天然ガスです。



都市ガス（東京ガス作成）



液化天然ガスのタンカー



プロパンガス（東京ガス作成）

三浦市内の都市ガス地図



東京ガス作成